

発行日：2022年4月1日

障害のあるかたの地域生活を支えるために

目黒区健康福祉部
部長 竹内 聡子



社会福祉法人もえぎの会の皆様には、日頃より目黒区の障害福祉行政にご理解ご協力を賜りまして、厚く御礼申し上げます。

コロナ禍も3年目となり、新たな変異株の出現で全国的に感染が続いています。感染防止対策を講じながら事業所等を継続していただき、障害者支援にご尽力いただいておりますこと、深く感謝しております。

もえぎの会の事業には、「しいの実社」が行う就労継続支援B型、就労移行支援と生活介護、区内4カ所のグループホーム「沙羅の家」があります。

「しいの実社」のパンは、目黒本町及び学芸大学にある店舗のほかに、目黒区民キャンパス内の福祉の店「COHANA(コハナ)」でも販売しています。2月の祝日前日には、翌日COHANAが休みのため、福祉の店受託事業者が区立東が丘福祉工房において出張販売したところ、福祉工房職員に好評であったと伺っております。社員(利用者)の皆様が心を込めて丁寧に作ったパンを多くの方に喜んでいただいております。

また、区の委託事業として、グループホーム「沙羅の家 清水」において地域生活支援拠点の実施をお願いしています。この事業では、障害者やご家族からの相談を24時間365日受け付けるほか、短期入所を活用した緊急時の受入や体験の場を提供しています。さらに、昨年4月障害者入所支援施設こぶしえんに設置いたしました目黒区基幹相談支援センターとの連携も期待されます。

障害者の重度化・高齢化、親亡き後の生活など、障害者の地域生活を支えていくためには、もえぎの会の皆様のように障害者支援への熱意と実績を持った法人と行政との連携がますます重要であると考えております。

令和4年度は目黒の未来を創る10年間のスタートの年として、障害福祉の更なる充実に向けて取り組んでまいります。

2022年度 もえぎの会 事業報告会のご案内

皆様におかれましては、日頃より、もえぎ会の活動にご理解を賜りまして、ありがとうございます。

恒例のもえぎの会 事業報告会は、コロナの状況を鑑みて、今後できる方法を検討して、改めてご案内申し上げます。

もえぎの会の活動の状況は、文書にてお届けさせていただきます。再び、皆様とお会いして、交流させていただけますよう、お祈り申し上げます。



2019年の様子

もえぎの会 2022年度事業計画

もえぎの会は、理念にある「地域での活動・就労・生活等の総合的な支援を目指す。」ということで、その中核となる日中活動の場と生活の場を運営し、質量とも向上を目指してきた。課題はあるものの、一定の成果を上げてきた。

今後、さらに世の中の状況の変化、地域の要請に基づいて、サービスの品質向上と併せて運営基盤の強化を目指すとともに、新たに利用者を受け入れ、一方で利用者・家族の高齢化への対応が、法人に課せられている大きな課題である。

しいの実社と沙羅の家の連携を強化し、相乗効果を上げるために、新たな課題に取り組む。今年度は各事業のさらなる質の充実を目指し、きめ細やかな事業運営を実践するとともに、長期的な視点をもって、新たな中長期計画を実行する。

重点課題

1. しいの実社、沙羅の家の連携強化

しいの実社、沙羅の家の業務改善が進み、運営が安定してきた。さらに、進展させるために、連携強化を図り、相乗効果により成果を上げる。そのために、具体的な施策として、サーバーに設置した掲示板を活用した情報共有、家族会の統合、実践的な研修、スタッフの協力体制などを検討し、実施する。

2. 利用者・家族の高齢化に伴う対策の実施

沙羅の家・しいの実社ともに高齢化を課題として取り組む中で、今年度は、医療連携、送迎体制、家族支援の検討をする。しいの実社・沙羅の家共同で取り組むために、プロジェクトを立ち上げる。両施設長のもとに選任されたスタッフをメンバーとし、施設単位の検討、両施設合同の検討を行う。そのために、制度の理解、多方面の研修、自立支援協議会への参加などを推進する。

3. 沙羅の家の体制の強化およびサービスの拡充

沙羅の家は、グループホーム6ユニット、うち2ユニットに併設されている短期入所2床、目黒区から委託を受けた地域生活支援拠点を運営している。本人・家族の高齢化、重度化が進展しており、夜間支援や週末利用のニーズが増加している。また、短期入所は、体験やレスパイトなどの定期的な利用や緊急利用も増えている。

高齢化、重度化への対応や短期入所の稼働率の向上に取り組むため、スタッフの能力向上とともに、体制の強化や提供するサービスの拡充を検討し、一定の方針を打ち出し取り組みを開始する。

理事長 コミュニティFM出演

「常に挑戦し、革新し続ける経済人の真の思い、本当に伝えたいメッセージを発信し、これからの日本を担う若者に、明日への気づき、学びとなるような番組を目指していきます。」というコミュニティFM放送に野村理事長が出演しました。

放送局：渋谷クロスFM

番組：【渋谷発!! 情熱企業未来をかなえるメッセージ】

日時：2022年 2月 9日(水) 12:00 - 12:50

出演：MC 安蒜幸紀 フリーアナウンサー

第一生命 渋谷支社長 大西崇博

ゲスト 野村和成



現在、YouTubeにアップされましたので視聴していただきますよう、ご案内申し上げます。

第20回 ウィズコロナのリモートしいの実祭 開催

第20回ウィズコロナのリモートしいの実祭を11月27日(土)に開催しました。今年も新型コロナ感染拡大により、昨年引き続き、大勢の方にしいの実社に来ていただくことが難しい状況でした。しいの実祭は、地域の方との交流で、施設・利用者の理解を深くするために大切なイベントです。

昨年同様、リモートしいの実祭としてカタログ販売と当日の屋外での販売、学芸大学店舗の臨時営業をしました。今回は記念すべき第20回らしいの実祭ということで、100%ホワイトカシミアのマフラーを5本限定で販売しました。取り扱いのむつかしいイタリアから直輸入の糸を使い、高い技術を必要とする織り方で、想定3倍の注文をいただき、年明けまで納品が続きました。カタログは、作り手の思いや製品を作る利用者の成長をお伝えできるようにしました。



青木区長、おのせ議長、竹内部長、田中課長をお迎え

しいの実祭当日は、利用者は通常の活動に加え、でかばっくによるアコーディオン演奏や屋外販売の見学、これまでの歴史を振り返る「もえぎの会実践のあゆみ」のDVD鑑賞を楽しみました。



製菓部門の活動



でかばっくの演奏



屋外の販売

感染防止対策をして活動が続ける様子を青木区長、おのせ議長、竹内健康福祉部長、田中課長に視察していただきました。

少しでも利用者の理解に繋がり、地域での生活・活動を継続するきっかけとなれば幸いです。

ウィズコロナの日帰り外出企画

新型コロナ拡大により昨年と同様、宿泊研修旅行実施困難のため、昨年目黒雅叙園に続き、八芳園の宴会場を貸し切り、ウィズコロナ日帰り外出企画として後援会の支援によりランチ会を開催しました。

実施にあたって、厳しい感染対策で安全を確保できるか検討を重ね、参加の希望をとりました。

専用のバスによる送迎、会場のアクリル板設置、



2m以上間隔の席配置、換気のための扉開放、アルコール消毒の徹底など、1つ1つ先方の担当者と確認しながら企画を進めました。

和食と洋食の選択でしたが、洋食が多くサンドイッチ、ハンバーグ、エビフライなど種類多く、皆さん嬉しそうに召し上がっていました。そんな表情を見ると計画した職員は利用者の非日常体験に前向きに取り組むよかったですと安堵の気持ちです。

後援会の支援により実施できましたことに大変感謝しております。



後援会

会員インタビュー

株式会社 フォークロア

長野県木曾郡南木曾町読書4828-1
TEL. 0264-40-1001
<https://folk-lore.com/>

長野県南木曾町で、2019年に創立した株式会社フォークロアの熊谷洋さん・理絵さんご夫妻にお話を伺いました。理絵さんは、元もえぎの会の職員で、しいの実社学芸大学店店長として活躍されました。創業のきっかけは、洋さんが会社員時代に海外で暮らし、働いた経験の中で、日本文化を「強味」として、地方で何かしたいという思いが膨らむ中で南木曾町と出会いました。2015年に東京から移住し、地域おこし協力隊の制度を利用して、古民家を地元の大工さんの手を借りながら自分の手で2年ほどかけ再生して、外国人の観光客を受け入れる宿として始めました。口コミで広がる中にコロナ禍となり、一方で転機となりました。宿業だけでなく、里山の恵みを生かして衣食住を作り、コミュニティ



熊谷さんの家族を中心に



作りのきっかけともなり、藍染の製品や農業も始めました。

縁もゆかりもない土地で、戸惑いながら着実に信頼関係を育み、事業を広げた洋さん。理絵さんは女性陣との関係を築いたことや娘さんの存在も大きいと仰います。男一人で来た当初は、「どこの馬の骨」という扱いだったが、今では娘さんをみんなが知っているほど馴染んでおられます。里山の恵みを生かした暮らしや人間関係を大切にしながら、広い視野で活動続けるフォークロア。これからも結びつきを大切にしながら前進するようエールを送り続けたいと思います。



すし屋の芳勤

目黒区鷹番3-16-19
TEL 03-3793-6261
<https://www.susi-yoshikan.jp>



服部博充 社長

目黒区鷹番で、先代社長が創業されてから47年の歴史をもつ、すし屋の芳勤さんをお尋ねしました。現社長の服部博充さんは、日本料理屋で5年ほど修業されてお店に戻り、店を仕切られています。7名の職人さんは中途採用ではなくゼロから店を担う人材を育てたいとのこと。また、接待で使う敷居の高い店ではなく、地元で小さい子からお年寄りまで気軽に来てもらえる店でありたいというお考えです。

カウンターで目の前で握ってもらう本格的な高級なお寿司屋さんかと思いきやとても気さくで、ふらりと来店される女性客もいらっしやるとのこと。職人さんも若く活気に満ちています。

コロナ禍で苦労も多いのではとお尋ねすると、以前から家族連れのお客様を中心なので、比較的影響は少ないとのこと。テイクアウトのお寿司を受け取りにお邪魔した際も、カウンターはお客様で埋まり活気があふれていました。そのあと家で食べたチラシ寿司は、ネタもシャリもおいしい！と感激しながらいただきました。



手先が器用な社長は、絵を描くのも趣味とのこと。店には描いた絵やなんとラピュタに出てくる盗賊一味がにぎやかにお寿司を囲んでいる、可愛いフィギュアも手作りとのことでした。

伝統の味と新しい風を取り入れる柔軟さを併せ持つ芳勤さん。今度は家族で食べに行こう！と思わせてくれる素敵なお店でした。



社長の描いた絵

「ポッシュベール」は羊毛フェルトやクレイの作品に命を吹き込む作家はっとりみどりさんのアトリエです。キャラクターたちのにぎやかなおしゃべりが聞こえてくるそのアトリエをお訪ねしました。長野県出身で武蔵野美術大学彫刻科卒業後、株式会社サンリオの立体デザイナーとして勤務ののち、ポッシュベールを設立されました。もえぎの会の後援会に入られたきっかけは、親しくされているご家族の娘さんがしいの実社の利用者というご縁からでした。

「子育て時代から、目黒で知り合ったたくさんの方の友人たちに助けをもらいながら仕事を続けて、その娘さんご家族には特に親しくしていただき、私にはどれだけありがたかったかしれません」そして、感謝の気持ちを伝える術はないかと考え、手芸好きの彼女のために、粘土の造形体験を思いつかれ、障害を持つ子どもたちのグループで造形教室を開くきっかけとなりました。「人前で教える」という経験が全くなかったはっとりさん。「手探りで試行錯誤の連続でしたが、お付き合いしてわかったことは、『教える』立場の私がたくさん教えてもらうことになったということです。経験の中で、自然な形で伝えることができるようになりました。」とおっしゃいます。その結果、信州大学や、港区の高齢者施設、カルチャーセンターからもお声がかかるようになり、出版社からも、ハンドメイド系のたくさんの方の本を出すことにつながっていきました。

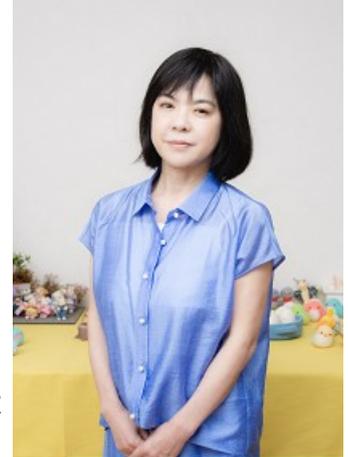
「もともとお礼に、なにかお手伝いできたら、と思っはじめたことが、仕事につながっています。こんなにありがたいことはありません。」一滴の雫がだんだんと波紋のように広がったのですね。



信州大学授業風景

これからの目標は？の問いに、「私の本には、一緒にがんばってきたママ友さんたちがたくさん参加してくれています。少しずつ、心や時間や予算をわけあって、楽しく作って発表できることが、今一番楽しく幸せです。出版をとりまく状況は楽なものではありませんが、仲間と少しずつ、作る楽しさをわけあえるような仕事を続けていけることが、何よりの目標です。」とこやかに答えて下さったはっとりさん。これからも羊毛フェルトやクレイの楽しい作品と一緒に活動が広がること

をお祈りします。



はっとりみどりさん



新規後援会員をご紹介ください

年会費 1口1,000円 個人会員 1口以上、法人会員 10口以上

会費はお手数ですが、直接お持ち頂くか、下記口座へお振込みください。

郵便振込口座 00130-5-667751

口座名義 もえぎの会后援会

問い合わせ先 もえぎの会后援会事務局(電話:03-5724-7153)

新型コロナウイルス感染症の取り組みを活かす

沙羅の家 施設長 長谷茂雄

東京都通所活動施設職員研修会、通称・都通研に2016年から運営委員として参加しています。内部研修が難しい小さな法人にも学びの場を提供できるようにと、年間5回の研修を企画・運営しており、私は毎年第5回を担当しています。今年も1月26日に担当回を盛会のうちに無事終えることができました。



その研修の真っ只中で沙羅の家では利用者が発熱したため検査したところ、新型コロナウイルス感染症の陽性であることが判明しました。

一報を受けた時「ついに来たか…」と思いましたが、スタッフの尽力により、罹患者は利用者1名とスタッフ1名で抑えることができ、いずれも症状は軽症で済んだことが不幸中の幸いでした。

療養・待機期間が明け、再度気を引き締めて全ユニットで通常運営を再開した2月7日に、今度は20数名に及ぶクラスターが通所施設と連動した形で発生しました。連日、陽性者の追加あり、感染が拡大しないよう対応に追われ、グループホームは閉鎖できないので、とても神経をすり減らす日々が続きました。入居者、ご家族、スタッフにはご心配ご不便をおかけし申し訳ない気持ちでした。この場をお借りして、改めて感謝申し上げます。

福祉事業者は2024年度までに自然災害や感染症が起きた際のBCP(事業継続計画)の策定が義務付けられています。グループホームは日常生活の拠点となる大切な施設です。図らずも今回は実践の場となり、貴重な経験をすることができました。今回の経験を活かして計画策定を進めたいと考えています。

支援力向上、サービス拡充目指して

沙羅の家 世話人 酒井秀樹

この度、「令和3年度 東京都相談支援従事者初任者研修」を受講してきました。令和2年度からプログラムが変更され、全7日間の日程に新たに「実習」を加えた、より実践的なカリキュラムとなりました。さらに、今回の研修はコロナ禍ということもあり、全てオンラインでの研修でした。

研修では小グループに分かれ、幾つかの「事例」について意見を出し合う中で、相談支援のプロセスを学んでいくことが獲得目標となっていました。様々な意見を聴く中で、知識はもちろんですが、相談者やそのご家族の立場に寄り添った視点が「相談支援専門員」には極めて重要と改めて実感しました。「実習」においては実際の障害当事者の協力により、「ケアマネジメント」の流れを体験することができました。「ケアマネジメント」の中で、最も大切な点は相談者の方が「希望」や「前向きな気持ち」を持てるような計画案を作成することです。相談者の方が叶えたい生活を実現するためにどうすべきかを支援者側は考えていく姿勢が求められていると感じます。



利用者とのコミュニケーション

障害当事者の方が地域で「その人らしく」生きていくためには、社会資源の充足や慢性的な人手不足の解消など、課題は山積していますが、私自身も微力ながら、その一端を担うことができるよう成長したいと思いました。沙羅の家は短期入所や地域生活支援拠点を併せて運営しているので、スタッフとして障害者の地域での生活が充実する

ように支援の質の向上に貢献したいと考えています。

編集後記

昨年経験したことを糧にして、今年度も新たな目標にむかって一歩ずつ進んでいきますので、これからもよろしくをお願いします。(岡田)

発行：社会福祉法人もえぎの会

住所：目黒区目黒本町2-7-3

(法人本部)

電話：03-5724-7153

e-mail : shiinomisha@abeam.ocn.ne.jp

http://www.moeginokai.jp/

